

# すぎなみ大人“熟”してる？

Jukusiteru? TIMES'14

平成26年10月4日発行  
発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.10

## みせ

## 個性を活かす「みせ」びらき

月曜コース  
9月29日

## 第8回「おぎくぼだがしや楽校・自分みせ」のふりかえり

昨日の다가しや楽校に引き続き、お疲れ様です。忘れないうちにふりかえりをいたしましょう！ということで、全員で輪となり、松田さんからご提示いただいたポイントにそって、発表しあいました。皆さん、たくさん収穫があったようですね。これからの活動が楽しみです。(相山)

### ♪ふりかえりPOINT♪

1. 何人と出会ったり、話しかけたりしましたか？
2. 自分なりに得た成果は、何でしたか？
3. 次回に向けてのアイデアを考えてみましょう。

### 何人と出会った？

15人～80人と人それぞれ。

「無限大」という回答も！

みなさん合算すると、

のべ、**総数510名**以上！！

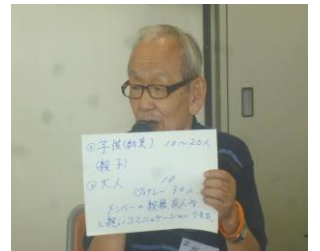


### 自分なりに得た成果

- ・新しいことにチャレンジできて良かった。
- ・自分にも何かできるのでは？と思えた。
- ・仮装で恥ずかしさがなくなった。
- ・商店会長さんと名刺交換できた。
- ・テントを使うとおみせの感じが出た。
- ・考える前にやっつけてしまえばいい！
- ・みなさん、喜んでくださった。
- ・価格について評価を得た。

### 次回に向けてのアイデア

- ・開催場所は、1ヶ所にした方が良い。
- ・踊り・歌、皆でやれることと結びつける。
- ・マジックは、司会がいたら良かった？
- ・下見時に会場レイアウトについて考える。
- ・展示の方法(背面の使い方・立体的利用・ブースの連続性)を工夫したい。
- ・商品価値を高めたい。
- ・3つの開催場所を回るスタンプラリーをする。



## こんにちは！社会教育実習生の澤田です

今回の講座で、印象に残っているものがある。それは輪投げ体験コーナーについてのふりかえりだ。最近では輪投げをする機会が減ってしまったのか、投げ方を知らない子どもが多く見受けられたようだ。そうした子どもたちにとって、ある種、古典的な遊びの場を提供できたことには大きな意義があったと思う。そして、こうした機会自体を増やしていくことも大切だろう。

今回のふりかえりでは、次はこうしたい、もっとああした方がよかったと意見やアイデアが出されたが、こうしたアイデアは机の上だけで考えられるのではなく、実際に行動を起こすからこそ見えてくるのではないか。この「다가しや楽校」はある意味通過点。今回の体験を生かし、次につなげて頂きたいと思う。(第6回から社会教育実習生として、毎回参加してくれている明治大学の澤田さんに、今回の講座についてコメントをいただきました。)



「遊びの楽しさはどこから来るの？～人のつながり方を発明しよう！」

**第8回  
 公開講座**

**講座の流れ**

1. 住中浩史 氏 講演
2. パネルディスカッション  
 ～遊びって何？～
3. 個人ふりかえり  
 24H以内で楽しかったこと

▼初の公開講座！… 一般受講者9名を加えての初の公開講座である。住中浩史氏をゲスト講師に「遊びの楽しさ」や「場」「アイテム」について話をしてもらった(右参照)。住中氏の講演後は、ゆるやか～に広石氏、齋藤氏を交えてのパネルディスカッションに移行。会場から質問を付箋で随時受け付け、パネラーに届けるアナログTwitterシステムを導入し、会場からの質問も交えて「遊びとは何か」「趣味と遊びと公共性」等の話題が展開された。

最後は、自分が24H以内に楽しかったことを思い出し、隣の人達と共有するワークショップを行った。

次回からは、いよいよまちを巻き込むアソビへと進む！(瀬山)

**すみなかさん 語録**

- 新しいドラマ(物語)が生まれる『場』づくり  
起きているドラマが加速する『アイテム』づくり
- ・簡単には繋がらないという絶望があるからこそ、何とか繋がるために努力と発明が必要。
  - 地域活性ではなく個人活性
  - ・自分が喜ぶ→1対1で喜ばせる→地域活性へ。
  - ・全力で遊ぶ中で客観視することにより、広い方向へと考える素地が出てくる。
  - ・過去の自分ができなかったことをし、過去の自分を救う。



↑手作り移動式「鍋」(作:住中浩史)

『あそび』や『ノイズ』

- ・8～9割は通常システム、常識、概念が良いが、残りはその既存の常識・概念・価値観とは全く違うもの(=遊びやノイズ)が必要。
- ・ノイズ的な人をどう面白く引き入れ、活性の源として結び付けていくか。



←路上生活者だった人が、住中さんの作ったカフェ自転車でカフェをOPEN。

未来志向 : How : 1.2.1.2... : etc...

- ・「最近の若者は…」では批判姿勢。若者と異世代が地域でふれあえば素敵。
- ・目的 ≤ How「どのように」がより重要。
- ・2回同じことをしたら、新しいことを取り入れた1回目をやってみる。その繰り返しは活性へ。
- ・転用、応用、変更、拡大、縮小、代用、置換、逆転、組み合わせ…は「+α」を付加する秘訣。



住中 浩史 氏

美術家・77年広島県出身。新潟県の「大地の芸術祭」ボランティアをしながら、20以上の集落との交流を持ち、地域でのアートの活動の可能性を体感し、活動を開始。小・中学校でのワークショップ、まち作りのアートプロジェクトに多数参加。現在、人が集い何かが生まれる『場』をつくる活動を多数おこなっている。

**— 感想集 (一部) —**

「(地域で)何かをしたい」ということ「遊び」ということの良い形のつながりをゆっくりに醸成していけたらいいな。/ 周囲の人に僕の活動に対して「エーッ!!」という反応があった方が良いと感じた。住中さんの「遊び」や「ノイズ」のプレゼンで対抗しようと思った。/ 私はムダ大好き人間で、道楽こそ本気だと思っている。/ 本気度の大切さを学びました。/ 住中さんが家で漫画部屋にこもると聞いて安心。自分も外でも遊ぶけど家で漫画やお笑いを見ます。それがあってのバランスかも。

◆ 大人塾に参加中のオトナたちに聞く (①出身 ②座右の銘・好きな言葉 ③自分のつながりPR)

㊦ 對馬 洋子

- ① 西東京市
- ② 健康な笑顔に幸福の風が吹く
- ③ 心と体の健康をめざして、スポーツクラブに通っています。

㊦ 田中 博子(ひろさん)

- ① 山口→岐阜→奈良→東京
- ② 初心忘れるべからず
- ③ コメントPOPのコミュニケーションツールとしての可能性を追求中！POP名刺を書いてみたい方、お声掛けを！

㊦ 有坂洋二(まぎー)

- ① 神田
- ② 至誠天に通ず
- ③ 七つの顔の翁…我樂多に生き、最後はコロリと昇天願望。

㊦ 藤生 英枝

- ① 栃木県
- ② 人は流れに乗ればいい
- ③ 都内で月見しながらゆっくりにできる場所知りませんか？屋外屋上など…。